



# 京大広報

No. 626

2007. 9



京都大学オープンキャンパス2007  
—関連記事 本文2451ページ—

## 目次

### 〈大学の動き〉

- 「第10回京都大学国際シンポジウム:活地球圏科学」を開催……………2450
- 「京都大学オープンキャンパス2007」を開催 ……2451
- 連続公開シンポジウム「倫理への問いと大学の使命」第1回を開催……………2452

### 〈部局の動き〉

- こころの未来研究センター設立記念シンポジウム「こころの探求」を開催……………2452
- 寄附研究部門の設置……………2453

### 〈寸言〉

- 人生最大の財産は「人」 平田康夫……………2455

### 〈随想〉

- 未練 名誉教授 坪内良博……………2456

### 〈洛書〉

- 所変われば…… 高山佳奈子……………2457

### 〈話題〉

- 第10回「高校生のための化学～化学の最前線を聞く・見る・楽しむ会～」を開催 ……2458

- ひらめき☆ときめきサイエンス—ようこそ大学の研究室へ—「地下浸水時の怖さを体験しよう」を開催……………2458

### 〈訃報〉……………2459

### 〈公開講座〉

- 第5回市民講座「宇宙と物質の神秘に迫る～物理科学最前線～」……………2460
- 教育学研究科附属臨床教育実践研究センター公開講座「イメージにあらわれる「文化」と「意識」—光と影の象徴表現—」……………2461
- 京都大学森林科学公開講座「森を食べる—森と木と健康—」……………2461

### 〈お知らせ〉

- キャンパスメンバーズ等のご案内 ……2462
- 総合博物館平成19年秋季企画展「生態学が語る不思議な世界 生物の多様性ってなんだろう？」……………2463
- 「テクノ愛'07」……………2463

### 〈日誌〉……………2464

### 〈隔地施設紹介〉

- フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所……………2465

京都大学広報センター

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

## 隔地施設 紹介



### フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所 (<http://www.seto.kais.kyoto-u.ac.jp/>)

#### はじめに

フィールド科学教育研究センターは、京都大学において今後の地球環境問題に関する教育と研究を担う3本柱のひとつとして、平成15年4月1日に設置されました。その使命は、フィールドに根ざした学問の推進と教育の実践です。その責務を果たすために理学研究科と農学研究科とにばらばらに所属していた、北は北海道から南は徳山まで全国各地に設置されているいわゆる隔地施設が、学部の間を取り組んで連携し、より広い視点をもった総合的なフィールド科学を創生しようとしております。「隔地施設の紹介」のコーナーでは、フィールド研のこれらの施設をシリーズでご紹介してまいります。トップバッターは、瀬戸臨海実験所です。

#### 沿革

京都帝国大学理学部附属瀬戸臨海研究所として、大正11(1922)年7月28日、当時の和歌山県瀬戸鉛山村(現在の和歌山県西牟婁郡白浜町)から敷地を購入し、番所崎の桔梗平と呼ばれた地に創設されました。その後、昭和5年6月1日昭和天皇行幸1周年を記念し、観覧設備を加えて水槽室を水族館として一般公開を開始しました。昭和12年には附属瀬戸臨海実験所と改称しました。初代の所長は駒井卓教授です。昭和43年には田辺湾にある島島を実験地として取得しました。また昭和56年には当時の藤永所長のご尽力で、老朽化した建物の一部を撤去し、改築する事業を始め、昭和58年に現在の実習室を含む研究棟と宿泊棟が完成しました。さらに平成5年に水族館第1・3・4水槽室を改修・増築しました。そして、平成15年に、理学研究科附属から京都大学フィールド科学教育研究センター附属へと改組して現在に至っています。



瀬戸臨海実験所の全景

#### 所在地と環境

瀬戸臨海実験所は、紀伊半島西岸、紀伊水道から太平洋に出る辺りの田辺湾口に位置しています。実験所の名称は、創設当時の瀬戸鉛山村の名前に因んだもので、瀬戸内海とは関係ありません。実験所は和歌山県西牟婁郡白浜町の西北端、番所崎の頸部の砂洲を占めていて、北は田辺湾、南は鉛山湾に面しています。

瀬戸臨海実験所周辺の気候は温暖で、冬も平均気温は7℃前後あり、雪は稀にしか降りません。ただし、冬の季節風は大変強く、寒さで死んだ海の生物がしばしば北の浜に打ち上げられます。夏の気温は30℃以上になります。雨は6月の梅雨時と9-10月の台風シーズンに多く降ります。

付近の海も、黒潮分枝流の影響を強く受けて温暖で、造礁珊瑚も生息しています。番所崎周辺の表面水温は年平均で約20℃もあり、冬でも12℃以下にはなりません。瀬戸臨海実験所のある田辺湾・鉛山湾周辺の海岸地形はたいへん複雑で、切立った崖に大小の入江と浜があり、暗礁や小島が散在しています。海底も岩盤・転石・礫・砂・泥など多様な状況を見ることができます。田辺湾中央部の水深は約30mあり、遠浅の砂浜や干潟はあまり発達していません。田辺湾口には番所崎・塔島・円月島・四双島などの岩礁域があり、外洋性の動物群集が見られます。またこれらの岩礁には大小のタイドプールが多数あります。

瀬戸臨海実験所が所有する島島は、田辺湾の南東部に位置していて、内湾系の特徴を多く示します。しかし、多彩な地形・底質を反映して、生物相も多様性に富んでおり、ここだけで湾内一帯の海岸生物相を一通



海洋生物相の30年を超える長期モニタリングが行われている島島実験地



り観察できるほどです。田辺湾奥には干潟がいくつかありますが、埋立てによって、規模は小さくなってしまっています。

### 研究と教育

瀬戸臨海実験所が伝統的に主軸としてきた研究分野は、海産無脊椎動物の分類・系統学です。特に刺胞・有櫛・軟体・節足・毛類・原索動物などについては、この分野の発展の中心的な役割を果たしてきました。またこれと同時に、底生動物(Benthos)・浮遊動物(Plankton)各種の分布、生活史、種間関係、行動などに関する生態学的研究も展開してきました。現在も各教員が恵まれたフィールドを活かして、さまざまな海洋生物の自然史に関する研究を行っています。特に近年は海洋の保全生物学や、森里海連環学などの分野でも研究を進めています。

教育面では、多数の臨海実習・少人数セミナーなどを実施するとともに、京都大学理学研究科の海洋生物学分科として、海産無脊椎動物の自然史に関する研究を志す大学院生の教育も行っています。

### 水族館と社会教育

瀬戸臨海実験所の特徴のひとつが、水族館の併設です。本水族館は博物館法に基づく博物館相当施設で、登録名は京都大学白浜水族館となっています。昨今の多くの水族館は、イルカのショーを行い、ジンベイザメのような話題性の高い動物を集めて、アミューズメントパーク化することによって集客を図っていますが、瀬戸臨海実験所の水族館が展示している水族は、学術的に意義深いものを中心で(例として、イラモを昨年「紅崩(第10号)」に掲載)。現在全国22箇所に国立大学所属の臨海臨湖実験所が設置されています。それらの実験所には、水族館が併設されているものが多かったのですが、現存するものは、瀬戸臨海実験所だけになってしまいました。主たる理由は、観客の減少とそれに伴う経費負担の増加です。白浜水族館も、バブルの崩壊後、観客数が激減しました。そこで少しでも観客を増やそうと、所員が一丸となって取り組んでいます。勤務日をやりくりして、平成16年度からは正月期間も含めて年中無休です。



京都大学白浜水族館



またさらに春、夏、冬の学校の休み期間には、小中学生の入館料を無料にし、さらに教員・技術職員が手分けして解説ツアーをほぼ毎日実施しています。またメールニュースを発行し、充実したWEBも作っています。このような努力の成果が実を結び、年間入館者数は平成18年度、6万1千人あまりになりました。本水族館は、京都大学のなかで大きく開いた社会への窓となっているのです。京大の方々も海水浴や温泉旅行などで白浜を訪れる機会はたくさんあると思いますが、そのときはぜひ水族館まで、足を伸ばしてください。

### アクセス

瀬戸臨海実験所へは、京都駅(または新大阪や天王寺)から、JR西日本の特急「くろしお」か「オーシャンアロー」を使うのが、一番便利です。吉田のキャンパスからですと、約3.5時間とかなり時間がかかります。しかし本学との交流は極めて重要と考え、瀬戸臨海実験所の教員は、手分けをして理学部の講義を前後期1コマずつと、セミナー1コマ・全学共通科目3コマ・ポケゼミ4コマを吉田地区で担当しています。

### 連絡先 瀬戸臨海実験所

住所 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459  
電話 0739-42-3515  
FAX 0739-42-4518  
<http://www.seto.kais.kyoto-u.ac.jp/>

### アクセス

京都駅から、JR西日本の特急「くろしお」  
または「オーシャンアロー」を利用  
約3.5時間